

学校教育目標	共に生き、共に学び、共に汗する 心豊かな津留っ子の育成
育成を目指す 資質・能力	自立:基礎的な学力に基づく自己決定力 共生:対話力 向上:問題発見・解決力

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <p>【大分県学力定着状況調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数、理科いずれの教科も正答率が、全体・知識・活用ともに全国及び大分県の平均値を大きく上回っている。 ・国語では、「言葉の学習」における「連用修飾語」、算数では、「分度器目盛りの読み方」、「はがきのおよその面積」、理科では、「1年間の動物のようす」、「天気の様子と気温」、「水のすがた」、「物のあたたまり方」において課題が見られる。 <p>【全国学力・学習状況調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数いずれの教科も全ての領域において、全国及び県の数値を上回っている。特に、記述式では、全国の数値を国+12.5ポイント、算+10.4ポイント上回っている。 ・国語では、「米作りの時に記録していた「カード②」と「カード③」の関係」を原因と結果など情報と情報との関係を正しく選択する問題において、全国及び県の数値より低い。算数では、「()を用いた式や加法と情報の混合した式を場面と関連付けて読み取る」問題において、課題が見られる。 	<p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の扱い方の指導において、原因と結果など情報と情報との関係を理解できるようにするため、ある事象がどのような原因によって起きたのかを把握したり、明らかにしたりする活動を計画的に取り組んでいく。 <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の解決に向けて、数量の関係を簡潔に、また一般的に表現するなど式を使いこなすことができるようにするために、文章問題から式を作っていく活動に加え()を用いた式や加法や乗法などの四則計算が混合した式を、日常生活の場面等と関連付けて読み取る活動を丁寧に行っていく必要がある。 <p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠のある予想や仮説をもたせた上で、実験観察を行い、得られた結果をグラフで表現し読み取ったり、図や絵で表現したりするなどの活動の充実を図る指導とともに既習事項を日常生活と関連させるなど学びの有用性を図る指導の充実が必要である。
	<p>これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期末児童アンケートで、「授業がよく分かる」93%、「ペア・グループトークで説明できた」87%、「全体場で進んで発表できた」64%、「友だちと自分の考えを比べながら聞くことができた」88%、「宿題を忘れずにすることができる」93%であった。 ・1学期末教員アンケートで、「対話による学び合い活動の実施」100%、「ペア・グループトーク活動の実施」100%、「話型を活用した話し合いの推進」73%であった。 	
指導の状況	<p>1 組織的な授業改善の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、自信をもって自分の考えを述べ、豊かに交流させるためには、子どもたちに話型を身に付けさせた上で、ペア、グループ、一斉のそれぞれの交流の場を指導者が意図的、計画的に設定していくとともに、子どもたちの考えの背景、理由を引き出したり、子どもたち同士の考えを繋いだりする役割を果たしていくことが重要であることを確認し、道徳教育の校内研修に取り組み研究を深めてきた。 <p>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基礎をしっかりと身に付ける子どもの育成」、「伝え合い、認め合う子どもの育成」、「自分を磨き続ける子どもの育成」を目指し、学習規律の徹底を図りながら、「生徒指導の3機能」を踏まえた授業改善に組織的に取り組み、基礎・基本を確実に習得する授業実践に努めている。 	

学力に関する達成指標
<ul style="list-style-type: none"> ○国語・算数・理科・社会の単元末テストで目標値80点以上の達成率が80%以上にする。 ○全体場で進んで発表できる児童の割合を90%以上にする。 ○ペアやグループ活動の時、自分の考えを説明できる児童の割合を90%以上にする。

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	<p>〈授業改善のテーマ・重点〉</p> <p>(授業改善のテーマ) 対話を通して学び合い、主体的に表現できる子どもを育成する授業づくり (授業改善の重点) 1指導と評価の一体化 2対話を生むめあてや課題の設定 3振り返りの活動の充実</p>	
	<p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要感や必然性のある学習課題や課題を追究する問い、揺さぶる問いを設定する。 ・話型の活用と学習形態の工夫を通して、考えを交流させることで、学びを深化させる。 ・振り返りによって自己の学びに気付かせたり、自己の変容や対話のよさを実感させる。 	<p>〈家庭・地域の取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習の徹底。
	<p>〈取組指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の「ねらい」を明確にし、達成状況をみとるための具体的な評価規準を設定することで、児童の資質能力を育成することができたか。 ・協働によって、考えを広げ深めたり、新しい価値を創造したりする場面があったか。 ・話型を踏まえたペアトーク・グループトークが、対話力の向上につながっているか。 	<p>〈家庭・地域の取組指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日、宿題は必ずやり遂げたかを確認する。 ・毎日、子どもの音読を聞く。
	<p>〈検証指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国、算、理、社の単元末テストで目標値80点以上の達成率が80%以上。 ○アンケートで「授業がよく分かる」と回答する児童の割合が90%以上。 ○「ペア、グループで考えを説明できた」と回答する児童の割合が90%以上。 ○「全体場で進んで発表できた」と回答する児童の割合が90%以上。 	<p>〈家庭・地域の検証指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「宿題を忘れずにできた」と回答する児童の割合が90%以上。 ○「子どもは家庭学習の習慣がついている」と回答する割合が90%以上。
<p>【授業改善以外の学力向上の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年部における共通理解事項を組織的な授業改善の視点から、知育部会で検証・改善する。(短期PDCAサイクル) ○互見授業及びレベルアップ講座を開催し、授業力を高め合う。 ○1時間の振り返りを行い、学び残しを明確にした上で授業の補充や個別指導を行い、中間層の底上げを行う。 		